第 29 回移住者インタビュー

『大船渡だからこそできることは何かを考え、

いろいろな人と一緒になって実現していきたい』

大船渡市地域おこし協力隊／OFUNATO DX_Hub　臼山　小麦　さん

臼山　小麦（うすやま　こむぎ）さん
長野県出身
大船渡市地域おこし協力隊／OFUNATO DX_Hub

インタビュー実施日：2022 年５月 30 日

―ご出身はどちらでしょうか。

生まれは長野県松本市です。育ちはその隣の安曇野（あずみの）市です。

―移住をしようと思ったきっかけを教えてください。

2021 年２月から１か月ほど、キャッセン大船渡（以下、「キャッセン」）でインターンをさせていただいたんですけど、そこですごく大船渡のことが好きになって。それから、2022 年２月に再度キャッセンでインターンをしたときに、地元の方からお仕事の話をいただいて、移住をしようという流れになりました。

―大船渡のどの点が好きになったのですか。

大船渡の「人」と「まち」に魅力を感じました。

人で言うと、私、これまでに日本中、だいたい 43 都道府県くらいをリュック一つで歩き回ってきたんですけど、その中でも特に大船渡があたたかくて面白い人がいっぱいいるなって感じました。震災を機に起業したり、新しいことを始めたりする方もすごい多いような気がして、そういった方たちと話すと、「私も頑張りたい」「何か挑戦したい」と感じて、いい刺激になっています。

また、まちで言うと、近くに海も山もあって自然が豊かだなって思います。ずっと長野県で生まれ育ってきた身としては、海の近くで暮らせるということだけでとても幸せです。

―日本中を歩き回ってきたとのことですが、そうしようと思ったきっかけは何ですか。

2020 年、大学３年のときに留学する予定だったんですけど、ちょうどコロナの流行と時期が重なって、留学がキャンセルになってしまいました。それで、自分の今後の大学生活やキャリアを考えたときに、「私はもっとやりたいことがあるぞ」って改めて思ったんです。やりたいことの一つとして、「いろいろな場所で暮らしたい」とか「多様な人に出会いたい」っていうのがあって、留学を通してそれらを達成したかったんです。でも、留学という手段がなくなった以上、「別の形で、今できることをしよう」と思い、リュック一つ背負い国内の旅に出ました。

もともと旅が好きだったので、本当に楽しかったですね。コロナ禍ではあったので、気を配ることが多くて大変ではあったんですけど、今となってはやってよかったなって思っています。

それまで住んでいたアパートを解約して旅に出たので、文字通りホームレスの状態でしたが、ホテルやゲストハウスに泊まったり、あとは農家の方のお家に泊めてもらったり、そういうのを繰り返しながら各地を転々としました。自分の家がなくても生活できるんだなって実感しました。

―移住をされるまでにどのような準備をされてきましたか。

準備は特に何もしていないですね。

ただ、移住することに対して少なからず不安はありました。地元である長野のことも、大学時代を過ごした東京のことも好きですし、日本各地を旅したので日本中に好きな場所がいっぱいありました。その中で大船渡を選び、大船渡に移住することに対して、「本当に自分の未来のためになるのか」とか「満足できるのか」みたいな不安はありました。それでも、大船渡市への移住を決めたのは、本当にいろいろな御縁があったからだと思っていますし、自分自身とのつながりが

一番強かったのが大船渡だったので、ここはもう割り切ってじゃないですけど、「自分で絶対満足のいく形にしよう！」と思うようになりました。

リュック一つ背負い、全国を旅していた臼山さん

―大船渡のまちや人とのつながりの強さが、臼山さんが移住をしようと思った決め手になったのですね。

そうですね。それもそうですし、大船渡の人たちが「一緒に働こう」「一緒に何かしよう」というスタンスで私のことを受け入れてくださったことが一番の決め手でした。私のような、まだ若くて自由な人間に対し、「こういうことを皆でできるんじゃない」とか「こういう仕事があるよ」と、本気で一緒に何かしようと動いてくれたり、アドバイスをいただいたりしました。そうやって本気で向き合ってくれたのが大船渡の人たちだと思っていて、本当に嬉しかったです。

実は私、大学４年の 12 月に、就職が決まっていた会社から内定を断られたんです。大学３年のときに既に決まっていた内定が、大学卒業間近の時期になっていきなりなくなってしまい、だいぶ焦りました。残り３か月でもう一度就活するか、将来的に起業したいと思っていたので、もういっそのこと起業してしまうか。でも踏ん切りがつかず、どうすればよいかわからないという状態が続きました。

結局、再度就活をすることに決めました。会社を一つに絞って、何とか最終面接まで行い、社長面談も終えることができ、「これは内定をいただけた…！」と確信しました。それが 2022 年２月の頃で、再度大船渡に訪れる機会があったので、「大船渡の皆に報告するぞ！」という意気込みで岩手に向かいました。

でも、岩手に着く１時間前くらいに、その面接を受けた会社から「お祈りメール」が届いたんですよ！最終面接までいって、部署まで決まっていたのに落ちてしまって、びっくりしました。大船渡の皆さんに良い報告をするつもりで行く予定だったのに、直前になって何も言うことがないという状態になってしまい、また私はどうしたらよいかわからなくなりました。

結局、進路が決まらず、心身ともにボロボロの状態で大船渡に辿り着き、皆さん本当に心配してくださいました。どん底のような状況の中で、大船渡の皆さんが「あんたは素晴らしい人材なんだから」「仕事ならあるから、大船渡に来たいと思っているならぜひ来て」と声をかけてくださって、本当にありがたかったです。そのときの大船渡への滞在は３日間の予定でしたが、そのまま１か月延長して、そして、気づいたら今こうやって移住しているので、本当に不思議だなって思います。就活が失敗したタイミングで大船渡に来ていなかったら、そして、皆さんがあのような向き合い方をしてくださっていなかったら、今頃私はどこかで野垂れていたかもしれません。

―移住をしたのはいつからですか。

2022 年４月です。ちょうど２か月くらい経ちました。今まで大船渡へは２～３月の頃しか訪れていなくて、その時期の大船渡しか知らなかったので、ここ最近は、自分の知らなかった大船渡の姿が見られて、日々新鮮な気持ちです。

生活自体は不自由なく楽しく過ごせています。東京に比べてごちゃっとしていないので過ごしやすいと思いますし、スーパーとか薬局とか必要なものがすべて揃っていて、自然にも囲まれていて豊かだなって思います。

―現在のお住まいについて教えてください。

今は盛町周辺のアパートを借りて生活しています。ただ、ゆくゆくは越喜来の崎浜にも拠点を置き、大船渡市内で２拠点生活をしたいと考えています。もっと言うと、２拠点に留まらず多拠点生活も実現していきたいです。

そう考える理由としては、やっぱりこちらの市街地の方と越喜来の方とでは、同じ大船渡市でも全然違う魅力があると思っていて、「どちらか一つなんて決められない！」というのはもちろん、どちらの魅力も享受して外に発信していきたいという思いがあるからです。

それから、もっと将来的なことで言うと、確かに大船渡のことはすごい好きですけど、ここに一生いるかは正直まだわからない。ただ、仮に離れることになったとしても、心は絶対大船渡とつながっていると思うんですよ。たくさんの活動拠点ができたとしても、どんなに遠く離れていても、大船渡とつながることができる。そのような生活は、私だけではなくて、ほかにも望む人がいると思っています。多拠点生活がやりやすい環境を整えていきたいです。

―大船渡市で生活してみて何か感じたことはありますか。

良いことしかないですね！全部が良いから何をピックアップしようか迷いますね…。

私が移住する前に「大船渡」って聞いて抱くイメージって、例えば「復興のまちづくり」とか「漁師さん」とかなんです。だから、移住することでそれらについて関わることはできても、自分が大学で研究してきたジェンダーやセクシュアリティの問題や、大切にしてきたアートの分野

への関わりは薄れてしまうのではないかという、漠然とした感覚がありました。

　でも、実際に来てみたらそんなことはまったくなかったです。芸術関係のイベントに参加させていただいたり、SDGｓの活動をさせてもらったり、むしろ大学の頃よりも能動的に活動できています。大船渡の先駆的な事例や、周囲の方の活動を見て、日々良い刺激を受けています。

　「地方だから諦めなきゃいけないことがあるんじゃないか」という固定観念が自分の中にあったんだなと思いました。でも、地方だからこそ、大船渡だからこそできることがあるという視点を持つことを意識するようになりました。「できないこと」に目を向けすぎず、大船渡だからこそできることは何かを考えて、いろいろな人と一緒になって実現していきたいです。

三陸町越喜来の首崎（こうべさき）灯台

―大学では、ジェンダーやセクシュアリティについてどのようなことを研究されたのですか。

　大学では社会人類学を専攻しまして、その中でジェンダーとセクシュアリティについて、いわゆる LGBTQ と呼ばれる性的マイノリティの方々の研究をメインでしていました。当事者へのインタビュー調査だったり、非当事者の方 200～300 人ぐらいの方に意識調査を行ったりしました。もう本当に楽しかったです！

―大学で学んだことが、今の活動に活かされていると思うことはありますか。

　もう毎日活かされています。大学での学びが日常の中に落とし込まれていくのが大好きなんで

す。先ほど話した「できないことに目を向けすぎない」みたいなことも人類学的な考え方です。人類学では、例えば海外の未開の地に行って民族研究などをします。その際、日本と比較して、「日本にはあるものがここにはない」というような見方をすると、日本の文化から見た記述しかできなくなってしまいます。そうではなくて、「ここには何かある…！」という視点を持って研究することで、見えるものが全然違ってくるという考え方が人類学にはあります。今、まさしくその考え方を持って日々生活しています。「岩手にはこんなものがあるんだ！」といろいろな発見を繰り返しながら生きているので、とても楽しいです。それがたぶん、大船渡で豊かに過ごせている秘訣なのかもしれないですね。

―大船渡市に移住してから印象深かった経験や思い出はありますか。

いっぱいあって絞り切れないですけど…。一つは、先ほど話した、就活がうまくいかなかったときに、大船渡の人たちがあたたかく受け入れてくれたっていうエピソードですね。

それから、もう一つすごい嬉しかったことがあります。大船渡に移住してきたときに、キャッセンでインターンした際にお世話になった方々が、自分のために歓迎会を開いてくださったんですけど、自分の想像以上に多くの方が来てくださったんですよ。２～３人ぐらいで集まるのかなと思っていたら、もっと多くの方が来てくれて、結果的に皆で火を囲んで語り合うような感じになりました。懐かしい人たちも集まってくれて嬉しかったです。

大船渡で出会った人たちは皆、自分のもう一人のお父さん、お母さんのような存在だと思っています。やっぱりたった一人で大船渡に移住してきて心細さはあったんですけど、「私は小麦のお母さんだから」とか「小麦が来て街がぱっと明るくなったよね」と言ってくださる方もいて、移住してきて本当によかったなと思っています。

―地域内での移動手段について教えてください。お車はお持ちですか。

はい。こちらに移住する前に購入しました。移住する際も、長野から車で 10 時間かけて大船渡にやって来ました。運転はほとんど父親にしてもらいましたが。

やっぱり車がないとこの辺りでの生活は大変ですね。移住前は車を持っていなかったのでとにかく歩いていましたし、誰かの車に乗せてもらうこともありましたけど、車を持って生活がすごい豊かになりました。今は、自分の意志で行きたいところに行けるし、会いたい人に会いに行けるようになりました。それこそ、越喜来との２拠点生活なんかは車がないと絶対できないですし、車を持ったおかげで、大船渡だけでなく他の地域の方々とも繋がれるようになりました。活動の幅が広がったことで、自分自身の視野も広がりました。車の購入は視野を広げることへの投資だと思っています。

―臼山さんの現在の活動について教えてください。

現在、３つを軸に活動しています。一つ目が大船渡市地域おこし協力隊、二つ目が OFUNATO DX_Hub、三つ目が旅行関係の事業です。

一つ目の地域おこし協力隊については、2022 年５月から着任しまして、「ICT 推進利活用」の分野を担当させていただいています。特に市の PR に力を入れていて、多くの人に大船渡を認知して

もらえるようにSNSなどを使って自分から積極的に情報発信しています。

仮に、大船渡でどれだけ魅力的な観光コンテンツを作り出せたとしても、「大船渡」そのものを見つけてもらえないと意味がないと思っています。私もその一人でしたが、まだ大船渡のことを知らない人が多いので、大船渡のことを知ってもらう意味でも、幅広くいろいろな情報を発信するようにしています。ゆくゆくは、私だけが発信するのではなくて、地域の人たちにも大船渡の魅力を発信していってほしいと思っています。そのような人材の増加や育成に向けた取組もしていきたいです。

また、事業者へICTニーズについてのヒアリング調査も行っています。聞き取ったニーズをもとに今後、サイトの作成やSNS等の運用支援も行っていきたいです。

二つ目のOFUNATO DX_Hubについてですが、これは2022年６月にキャッセン内に新たに開設されるコワーキングスペースのことで、私は単独でそこのコーディネートや管理を行っています。盛岡にある株式会社Next Cabinet IWATEが運営をしていて、そこから管理業務委託を受けてやっています。

大船渡に移住してきて思ったのは、小さな移住者コミュニティはあっても、みんなが集まる場所がないということです。陸前高田や気仙沼にはそういう場所があって、結局大船渡の人たちもそこに足を運んでいるという状態で、それがすごくもったいないなと感じていました。そんな中でコワーキングスペースのお話をいただき、すごいやりたい！と思いました。

移住者に限らず、地元の人たちも気軽に集まってくれるような場所にしたいとも思っています。私自身、地元の人たちとのつながりのおかげでこれだけ大船渡のことが大好きになったので、外から入ってきた人たちの、地域に馴染んでいくためのスタート地点というか、「とりあえずここに行けばいろいろな人とつながれるよ」という場所にしていけたらと思いますし、そういう場所を作らなきゃいけないとも思っています。

OFUNATO DX_Hub 内での仕事風景

三つ目の旅行関係の事業ですが、これはまだ準備段階で具体的に着手はできていない状況です。ただ、将来的に民泊の事業をやりたいと思っています。

越喜来の中野圭（なかのけい）さんという漁師の方のところで、ホタテ漁やワカメ漁のアルバイトをさせていただいたことがあって、それがすごい楽しくて良い経験になりました。ただ、求人募集がうまくできていない状態でしたので、「おてつたび」という、旅をしながら地域のお手伝いをするサービスの利用を促し、若者のお手伝いの募集を開始しました。そして、お手伝いに来てくれた人たちが寝泊まりできる場所を用意するために、近くにあった空き宿舎を一生懸命掃除して、誰でも受け入れられるように整備したんです。それから、いろいろな人が来て、中野さんのお手伝いをしながら中長期の滞在をするようになりました。

この経験を機に、「こういう仕組みは絶対整えた方がいい」と思うようになりました。私自身、全国各地を旅してきましたが、受け入れてくれる場所がなかったら、どんなに行きたくても行きづらくなってしまうので、その地域の入口となる場所を作らなきゃいけないと思いました。そういう意味で言うと、大船渡はホテルとかしかなく受入口が少ないので、中長期的な滞在がしづらい印象があり、それが旅人目線から見た大船渡の一番の課題だと思っています。

ですので、いろいろな人の受入口となるような環境を整えたいです。その一つの案として、漁師さんの仕事と絡めた体験民泊みたいな形で実施できればと思っています。漁師さんにとっても、人が来てお手伝いしてもらえるし、体験した人たちにとっても、面白くて豊かな経験になると思っていて。そういったことを今、中野さんと共同して進めているところです。

―臼山さんの思う大船渡市のおすすめスポットを教えてください。

景色で言うと、太平洋セメントがすごい好きです。大好きすぎて意味もなくあの周辺の道を通るようにしています。映画のセットのようで、まるで日本ではないような非現実感があって素敵です。毎日見られます。

お店で言うと、「とよまるや」というラーメン屋さんが大好きです。キャッセンから歩いていける場所にあります。深夜２時までオープンしているんですけど、ここら辺ってあんまり夜遅くまで営業しているラーメン屋さんはないので、すごく重宝しています。もちろん味も美味しいんですけど、何より店主の方が優しくて本当に素敵なんです。その方に会いたくて集まってくる人もたくさんいるので、お店に行くと大船渡の人たちと仲良くなれます。ラーメンも美味しくて、いろんな人にも出会えて、店主の方も優しくて…もう最高じゃないですか！

―今後活動していく上での目標を教えてください。

この１年間の目標は、「応援される人になりたい」です。私は、大船渡の人のこともまちのこともまだ十分には知らないので、まずは自分からいろいろなところに行き、いろいろな人に出会い、まちを知る。そうやって出会った人たちに「一緒に頑張ろう」って言ってもらえるような存在でいたいと思っています。自分のやりたいことを実現するためには多くの人に仲間になってもらわなくてはいけないので、そのためにも、まずは応援される人でありたいなと思います。

―移住しようと考えている人に対してメッセージをお願いします。

大船渡はすごく良いところです！迷っているならぜひ来てほしいですね。

大船渡には独特のパワーがある気がします。「震災」という共通の経験が、大船渡の風土を作っているのではないかと思います。震災を機にいろいろなボランティアの方が大船渡にやってきたことなどから、外部の人を受け入れられるだけの土壌がある。それに、震災を経て、ゼロからのスタートを切った人たちがたくさんいる。そういう意味で、何か大船渡ならではのパワーがあると思っています。来てみたらそのパワーに魅了されると思います。ぜひ皆さん来てください！